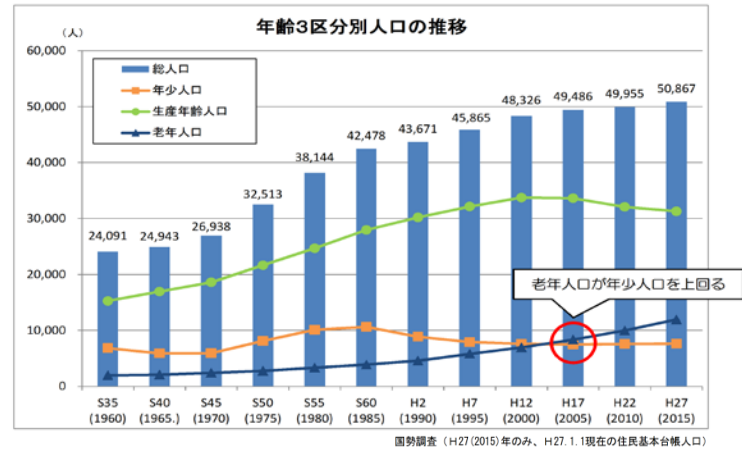


野洲で安心・楽しく生涯が送れる“まち・ひと・しごと”づくり 概要

I 人口の現状分析

1 人口の推移

- 本市の人口は、1960年から現在まで一貫して増加している。
- 1970年から2000年までの30年間は、5年ごとに1000~6000人の増加となっていたが、近年は500~1000人の増加と、人口の伸びが緩やかになっている。
- 年少人口、生産年齢人口は、近年減少傾向であるが、老年人口は、一貫して増加傾向であり、2005年以降は年少人口を上回っている。



2 出生・死亡、転入・転出の推移

- 自然増減…「自然増」が継続しているが、近年、その数は減少傾向
- 出生数…500人前後で推移していたが、近年は500人を下回っている。
- 死亡数…増加傾向となっており、近年は400人を超えている。
- 社会増減…2012年に転出数が転入数を上回り、現在まで社会減が続く。

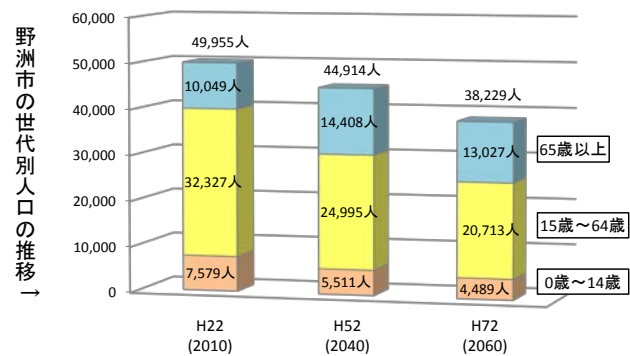
3 年齢階級別の人口移動の状況

- 男性・女性ともに10歳代後半~30歳代前半の転出超過が多く、特に男性でその傾向が顕著である。

II 将来人口の推計と分析

1 人口の将来推計(社人研推計準拠)

- 2060年の総人口は38,229人(2010年より23%減少)
- 2060年の高齢者人口は13,027人(2010年の約1.3倍)



2 人口減少段階の状況

- 2010年から年少人口、生産年齢人口は一貫して減少する。
- 老年人口は2045年まで増加し、この年をピーク以降は減少する。

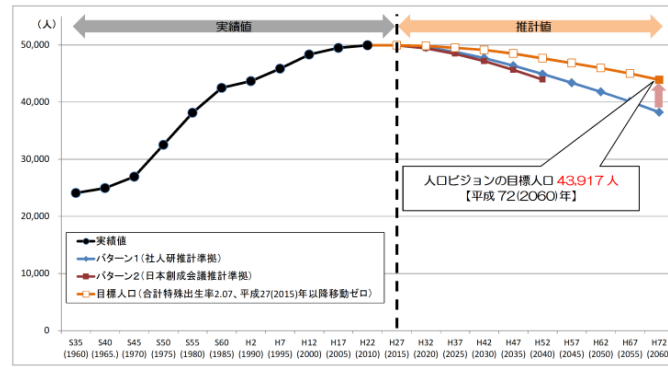
III 人口の将来展望

1 人口に関する目標

- 自然増減の増加基調の維持・拡大と合計特殊出生率2.07以上の実現を目標とする。
- 社会増減の減少を改善し、増加傾向に転換することを目標とする。

2 人口の将来展望

- 総人口 2060年に43,917人を達成することを目標とする。(社人研推計準拠より約5,700人増を目指す)



IV 目指す将来像を実現するための戦略

1 基本的な考え方

(1) 基本的な視点

- 「野洲の個性と魅力を活かした戦略的な土地利用を図る」
- 「就職・結婚環境を整え、若者を中心とした人口流出の抑制を図る」
- 「安心して出産・子育てができる社会づくりにより人口構成の再編を図る」

(2) 基本理念

野洲で安心・楽しく生涯が送れる”まち・ひと・しごと”づくり

2 基本目標と具体的な取組

(1) 野洲らしい産業振興により、「野洲で働きたい」と思えるまちづくりを展開します

工業用地の拡充や道路交通網の充実など、企業が操業しやすい環境を整備することにより雇用を確保するとともに、農林漁業の振興と観光の振興を総合的に取り組む。

- ① 商工業の振興
- ② 農林漁業の振興
- ③ 地域資源を生かした観光の振興

主な事業

- ・女性の為の創業塾補助
- ・地域資源を活用した農産物等販路拡大事業
- ・オクトーバーフェスト実行委員会補助
- ・夏まつり実行委員会補助

(2) うるおいとにぎわいのある快適な都市環境の確保により、「野洲に住みたい・行きたい」と思えるまちづくりを展開します

優良農地は確保しながらも、定住促進の受け皿としての計画的に市街地を整備し、国道8号バイパスや大津湖南幹線など道路交通網の整備効果を生かした快適な居住環境の確保に取り組む。

- ① 均衡ある土地利用の推進
- ② 公共交通の利便性の向上
- ③ 快適な居住環境の確保

主な事業

- ・野洲駅周辺都市基盤整備
- ・コミュニティバスの見直しと新たな公共交通システムの運用
- ・公営住宅の適正な管理及び長期計画の改訂

(3) 結婚・出産への安心感のある社会を実現し、「野洲で結婚したい・子育てしたい」と思えるまちづくりを展開します

出産・子育て世帯への支援強化や子どもが健やかに成長できる学校教育の充実、青少年の健全育成などに取り組む。

- ① 子育て・子育て支援の充実
- ② 青少年の健全育成
- ③ 学校教育の充実

主な事業

- ・妊婦健診費用助成事業
- ・スクール・ソーシャル・ワーカーの配置
- ・特別支援教育支援員の配置

(4) 健康で安らかに生涯を送れる社会を実現し、「野洲に住みたい」と思えるまちづくりを展開します

市立病院整備による地域中核医療機関の安定的な確保や高齢者が地域のなかで安心して暮らせる仕組みづくりなど、市民の健康や高齢者福祉の充実に取り組む。

- ① 健康づくりの推進
- ② 高齢者福祉の充実

主な事業

- ・市立病院整備による地域医療の再構築
- ・高齢者支え合い拠点・終活仕組みづくり事業
- ・「認知症サポーター」制度の普及促進

3 重点プロジェクト

本市の課題…市街化区域面積が近隣市と比べ著しく狭小であり、人口定住化の受け皿となる市街化区域の拡大が必要。また国道など幹線道路の整備が遅れており定住化と企業立地の妨げとなっている。



定住促進を目指した土地利用や住居環境の確保と国道8号バイパスや大津湖南幹線などの道路網整備による市街地の拡大を重点プロジェクトとする。

- 長期的に市街化を検討していく地区および新たに都市拠点の整備を図る地区として都市計画マスタープランに位置づけている15地区について、周辺の土地利用や道路等の社会インフラの整備状況などを踏まえ、今後、市街化の実現・可能性の高い地区を検証

※主な社会インフラ整備

国道8号バイパス/大津湖南幹線/篠原駅周辺都市基盤整備

- 市街化の実現・可能性が高い5地区(4地域)について、市街化編入のあり方を整理し、居住人口の想定等を実施
- 上記地区について、人口定住策の重点的な整備を図る地区として、まちづくりの将来像を示した「野洲市まちづくりビジョン」を作成。